

# Q-Uを活用して不登校の芽を摘もう

本年度から宇都宮市立の全小中学校で実施のQ-Uは、不登校の予備軍あるいはグレイゾーンともいえる子を発見し、その子や学級の状態に合った介入の手立てを見いだす上での貴重な情報源となるものです。



先月発行した「教育センターだより第48号」では、Q-U特集を組み、その実施方法や学級事例研の進め方などについてお伝えしました。今回は、不登校の未然防止のためのQ-Uの活用方法について考えます。

学級生活不満足群、とくに要支援群の子



ずばり、不登校の予備軍。  
早急な手当てが必要な子です。

## こんな子が多いのでは？

困った行動や変わった行動が目立ったり、何事にも無気力で覇気が感じられなかったりするために、教師や周囲の子から、何かと注意や叱責、非難を受けることが多い子。

自分に対する周囲の態度に極めて敏感であり、少しのことにも強い被害感を募らせてしまう子。これらの中には、何らかの発達障害がある子や、その周辺の子が含まれているかもしれません。

## どうする？

学級担任だけで抱え込むことのないよう、学年会や児童指導部会・生徒指導部会、教育相談部会等では必ず話題にします。中学校では、スクールカウンセラーにも知ってもらい、その子の理解と対応の方向性について確認しておくとういでしょう。

## 具体的には

学級担任をはじめ、とくにかかわりのある教師との人間関係を強固にするために、注意・叱責以外の声かけを、努めて多く行う。

ほんの短い時間でも、その子と直接かかわる時間を意図的につくる。

- (例)・休み時間や放課後に一緒に遊んだり、おしゃべりをしたり、手伝いをさせたりする。  
・授業中の机間巡視では、必ずその子に声をかけ、学習の面倒を見たり、ちょっとした身の回りの世話をしあげる。

その子の興味・関心のあることや、得意とすること(他の子との比較ではなく)を、掲示物や配布物、係活動等に積極的に取り入れる。

- (例)・その子が描いたイラスト等を、学級・学年、ときには全校的な掲示物や配布物に取り入れる。  
・カメの飼育係など、学級に新たな係をつくって、その子に任せる。あるいは教師と共に行う。

事務職員等も含め、全職員に顔と名前を覚えてもらい、顔を合わせたら必ずひと声かけてもらう。

## こんな点に注意

子どもは、教師が自分に対して、心から好意的に接してくれているかどうかを鋭く見抜きます。発達障害がある子なども、そうした点を極めて敏感に察知し、すかさず行動で反応します。ときには、教師の本音を引き出そうと、教師を試すような挑発的行動が見られることもあります。自分を心から受け入れてくれると感じた教師に対しては、安心感を持って心を許し、緊張感もほぐれてきます。情緒面が落ち着いてくると行動も次第に安定し、仲間との関係や集団適応もよくなるものです。学級に不適応感を感じている子には、まず教師との関係強化が、何より不登校の歯止めとなります。



## こんな場合も要注意！

仲よく見えるグループや、行動を共にすることが多い子のプロット位置を線で囲んでみたときに、一人のプロット位置が、他の子たちに比べて左方あるいは下方に大きく離れている場合。

グループ内に、「支配 被支配(いじめ)関係」や「社会的地位の上下」がはっきりしていて、その子は苦しい思いをしている恐れがあります。

「どうしてこの子がこの位置に？」 ... **プロット位置が意外な子**

こんなとき、「Q - Uは当てにならない」と決めつけるのはちょっと待った！  
 子どもの主観での回答ですので、教師の見方とは大きく食い違うことはあるものです。  
 よく吟味してみると、思わぬ発見があって、ドキッとさせられることもあります。

**例えば、こんな子なのでは？**

明るく、ひょうきんな面があり、周囲を笑わせるクラスの人気者なので、当然  
 学級生活満足群と思っていた子が、意外にも非承認群であった。 A

柔和で責任感が強く、様々な行事等ではクラスの代表として選ばれるなど、仲間からの  
 信頼も厚い子なので、学級生活満足群と思っていた子が、侵害行為認知群であった。 B

生活態度が乱れがちで、学習意欲にも乏しく、強い指導を行っては不満げな態度を見せ、教師と  
 ぶつかることの多い子が、思いがけず学級生活満足群であった。 C



**どう考えたらいいの？**

Aの場合： その子の日ごろの行動は、仲間の注目を引き寄せて、自分の存在を認めて欲しい気持ち  
 の表れであり、過剰なサービスといった感がありそうです。内心は孤立への不安や自信の  
 なさを抱えていることが窺えます。

Bの場合： 周囲にとっては、面倒な役割を背負わせるに都合のよい存在なのかもしれません。  
 きちんとした子なので、嫌な顔ひとつせず、仕事もそつなくこなすものの、いつも押し付  
 けられてはNOが言えず、重苦しい気持ちを抱えているのかもしれません。

Cの場合： そうした行動や態度が、学級の仲間の間では受け入れられ、その子の学級内での社会的  
 地位は高いことが予想されます。こうした歓迎ムードが高まると、学級全体の統制が保て  
 なくなり、学級崩壊に進行する場合があります。そうした中では、きちんとしている子や  
 繊細で不安傾向が強い子が、学級にいづらくなりやすいものです。

**どうする？**

他の教師からその子や学級の状態についての情報や意見を聞きます。また、注意深い行動観察を、  
 他教師にも協力してもらいながら行い、正確な情報収集に努めます。

さらに、A・Bの場合では、その子に守秘義務の確認をした上で、個人的に話を聞いてみます。  
 その際、「アンケートの結果から気になる点があるので、少し話を聞きたいんだけど。さん  
 にとってもっと居心地のよいクラスになるように、先生も考えたいと思っているんだ。」と、話し合  
 いの意図や教師の思いをきちんと伝えるようにします。

Cの場合は、可能であれば学級の全員と教育相談を行い、今の学級の様子について、一人一人と  
 話し合い、その上で他教師とも協議しながら今後の学級経営の具体的な方策を検討します。

**学級全体の分布状況でも、こんな場合は要チェック！**

プロット分布が、全体的に右側に寄って縦長の分布になっている。いわゆる「**縦型**」



統制力には優れていますが、柔軟性にやや欠け、厳しさが目立つ教師の学級によく見られるパタ  
 ーン。子どもが認められるための価値基準（例えば勉強ができるか、活発ではきはきしているか、落  
 ち着きがありきちんとしているかなど）が限定され、それに基づいた階層化が生じており、基準に合  
 わない子が欲求不満を募らせたり、気分が落胆したりしやすい状況となっています。この価値基準  
 には、教師の教育的な価値観が反映していることも多いものです。

プロット分布が、全体的に上側に寄って横長の分布になっている。いわゆる「**横型**」



優しく、子どもの主体性を大事にする一方で、学級のルールづくりや、一貫性のある毅然とした  
 指導の面がやや曖昧になっている学級によく見られるパターン。行動の枠組みがはっきりしない状  
 況下では、交友関係で力のある者が一方的に幅を利かせ、いじめが起こりやすくなっています。